



香川大学工学部ニュース

No. 46, 2013.1.30

ミュンヘン工科大学とボン=ライン=ズィーク大学を表敬訪問

平成 24 年 9 月 16 日から 22 日までの 1 週間、工学部の派遣団がドイツの 2 つの協定校、ミュンヘン工科大学とボン=ライン=ズィーク大学を表敬訪問しました。派遣団のメンバーは、秦教授、松島教授、能見准教授、高橋教務職員の 4 名と、学生 16 名（学部 4 年生 3 名、3 年生 5 名、2 年生 5 名、1 年生 3 名）の計 20 名です。ボン=ライン=ズィーク大学では、学生と教員がそれぞれ発表を行いました。協定校での交流のほか、ミュンヘンではシーメンス研究所や BMW 博物館を訪問し、ボンではフランフォーファー研究所を見学しました。

個人旅行では訪れることのない大学や研究所で、工学分野について学ぶ機会が持てたことは、派遣団にとってとても貴重な経験になりました。現地では、ほとんどの移動に公共交通機関を利用しましたが、天候にも恵まれ、すべての旅程を予定通りこなすことができました。訪問先でお世話になった方々を含め、学内外の多くの方々のご理解とご支援を頂き、今年度も大変有意義な訪問プログラムが実現しました。



ミュンヘン工科大学の見学



ボン=ライン=ズィーク大学での記念撮影

アンチエイジング成分配合の化粧品の開発

掛川教授と（株）イーエスティージャパンが共同開発した、アンチエイジング成分配合の化粧品が注目されています。生薬の甘草に含まれる ILG（イソリクイリチゲニン）は、抗アレルギー作用、抗酸化作用、抗炎症作用、血小板凝集抑制作用、ヒアルロン酸分解酵素抑制作用など、老化防止に有用な多くの機能を有しています。掛川教授らは、この ILG を配合した世界初のアンチエイジング化粧品の開発に成功しました。現在、化粧水、美容液、クリームの 3 種類を販売しており、今後はボディやヘアケア商品などへの展開も進めていきたい考えです。



ILG 配合の化粧品

北京理工大学生命学院と学術交流協定を締結

香川大学工学部および大学院工学研究科は、平成 24 年 10 月 24 日に北京理工大学生命学院と学術交流協定を締結しました。

北京理工大学は 1940 年創立の国立大学で、中国で最も歴史が長い大学です。4 学部、19 学院を有し、学士課程専門分野は 65、修士課程専門分野は 172、博士課程専門分野は 100 あります。学生総数約 30,000 人のうち、学部学生は約 16,600 人、大学院学生は約 13,400 人、長期留学生は約 1,500 人で、研究を中心とする大学です。

協定書の調印は北京市にある北京理工大学で、北京理工大学の鄧生命学院長と、香川大学の増田工学部長により行われました。本協定の調印により、北京理工大学生命学院と香川大学工学部および大学院工学研究科は、双方の学術交流を拡大・推進するために、教員及び研究者の交流、学生の交流、共同研究の実施などを予定しています。



協定調印
(前列左から鄧生命学院長、増田工学部長)

天津理工大学と学術交流協定を締結

香川大学は、平成 24 年 10 月 25 日に天津理工大学と学術交流協定を締結しました。併せて、香川大学工学部及び大学院工学研究科と天津理工大学工科系学院は、学術交流協定に関する実施細則を締結する運びとなり、10 月 25 日、天津理工大学キャンパスにて調印式を行いました。

天津理工大学は 1996 年に天津理工学院、天津大学機電学院、天津大学分校、天津大学冶金分校が統合された天津市市立大学です。15 学院を有し、学士課程専門分野は 52、修士課程専門分野は 39 あります。学生総数約 20,000 人のうち、学部学生は約 16,600 人、大学院学生は約 3,400 人、長期留学生は約 400 人で、研究を中心とする大学です。

調印式には、天津理工大学の張樺副学長、香川大学工学部の増田拓朗学部長、郭書祥教授が出席しました。天津理工大学とは、継続的に交流が行われており、これまでに天津理工大学から 1 名の研究者が香川大学工学部に来られており、また、香川大学大学院工学研究科の博士後期課程修了生 1 名が天津理工大学の教員になっています。本協定の調印により、天津理工大学と香川大学工学部および大学院工学研究科は、双方の学術交流を拡大・推進するために、教員及び研究者の交流、学生の交流、共同研究の実施などを予定しています。



調印後に握手を交わす
張副学長(右)と増田工学部長(左)

ドイツ協定校訪問の報告会を開催

平成 24 年 10 月 17 日、ドイツの協定校訪問の報告会を開催しました。派遣学生 16 名が、約 1 週間のドイツ滞在中に訪問し見学した大学や研究所、博物館などについて発表を行いました。学生からは、現地で英語の説明に戸惑う場面も多かった一方、ドイツの工学分野の研究に触れたことで、今後の進路を検討する上で非常に刺激を受けた、将来国際インターンシップに挑戦したい、という報告がありました。報告会には約 30 名の教職員と学生が参加し、報告会後の懇親会では、打ち解けた雰囲気の中で、学科や学年を超えた交流が行われました。



司会進行役の齊藤君



発表の様子



質疑応答の様子

顔認証による安否確認システムの開発

平成 24 年 11 月 26 日、知能機械システム工学科の林純一郎研究室とグローリー（株）が共同開発した顔認証システムを使い、大災害が発生した際、避難所での安否確認に役立てるための実証実験が行われました。あらかじめ各個人の顔を登録しておくことで、災害発生直後でも住民の避難状況を素早く正確に把握することができるようになります。このシステムは、今後 1 年をかけて実用化を目指す考えです。



実証実験の様子

電子・情報工学科新任教員講演会を開催

平成 24 年 12 月 21 日、電子・情報工学科では、下記新任教員 2 名の研究内容を紹介する講演会を開催しました。多数のご来場、ありがとうございました。今後の研究交流・産学交流にお役立ていただければ幸いです。

1. 神野正彦 教授

「光ネットワークをもっと柔軟で効率的にーエラスティック光ネットワーク技術の現状と研究課題」

2. 浅野裕俊 助教

「感性情報評価技術の役割と研究事例」

※詳細は <http://www.eng.kagawa-u.ac.jp/rise/topics/shinnin2012.html> をご覧ください。

韓国ハンバット大学との合同研究会を開催

韓国ハンバット大学の学生 14 名と教職員 5 名の 19 名が、平成 25 年 1 月 6 日から 1 月 9 日まで香川大学工学部を訪問しました。これは、材料創造工学科の須崎嘉文教授とハンバット大学の KIM Yoon-Kee 教授との共同研究を中心とした活動の一環であり、1 月 7 日には、「第 2 回香川大学およびハンバット大学による材料関連合同研究会」を開催しました。特別講演；3 件、口頭発表；4 件、ポスター発表；31 件があり、約 60 名の学生・教職員が参加し、活発な議論がなされました。また、翌日の 8 日には企業訪問を行い、大倉工業株式会社（丸亀市）と株式会社マキタ（高松市）を訪問しました。滞在中は、連日、学生及び教職員の交流会や懇親会も行われ、さらに親交を深めることができました。



合同研究会ランチパーティ・ポスターセッション会場において



企業訪問

トピックス

学術賞受賞等

10 月 16 日 山口堅三, The Best Paper Award (JSPS-DST Japan-India Bilateral Seminar on Supramolecular Nanomaterials for Energy Innovation) / 10 月 17 日 山下亮介, 第 47 回地盤工学研究発表会優秀論文発表 / 10 月 24 日 鈴木孝明, 最優秀技術論文賞 (第 29 回センサ・マイクロマシンと応用システムシンポジウム) / 10 月 24 日 寺尾京平, 最優秀技術論文賞 (第 30 回センサ・マイクロマシンと応用システムシンポジウム) / 10 月 24 日 下川房男, 最優秀技術論文賞 (第 31 回センサ・マイクロマシンと応用システムシンポジウム) / 10 月 24 日 高尾英邦, 最優秀技術論文賞 (第 32 回センサ・マイクロマシンと応用システムシンポジウム) / 10 月 24 日 新田祐幹, 最優秀技術論文賞 (第 34 回センサ・マイクロマシンと応用システムシンポジウム) / 10 月 30 日 忽那大輔, 電気学会優秀論文発表賞 (IEEJ Excellent Presentation Award) / 10 月 31 日 石丸伊知郎, ISOT'12 Innovation Award (ISOT2012) / 11 月 22 日 土居俊一, 優秀論文賞 (公益社団法人計測自動制御システム・情報部門学術講演会 2012) / 12 月 12 日 蔵本幸司, 電気関係学会四国支部連合大会優秀発表賞 / 12 月 12 日 高田涼介, 電気関係学会四国支部連合大会優秀発表賞 / 12 月 12 日 橋本樹明, 電気関係学会四国支部連合大会優秀発表賞

編集：工学部広報室 電話：087-864-2000 FAX: 087-864-2032
 e-mail: info@eng.kagawa-u.ac.jp <http://www.eng.kagawa-u.ac.jp/>